

西陣の町家にて

事務所が上京区に移転して10年になります。お借りしている建物は明治期に生糸問屋として建てられた立派な町家です。1945年から小児科医院として使われたあと十数年間空き家となっていたのを、2012年に私たちがお借りする際、改装されていた部分を撤去して元の町家らしい風情に戻し、事務所として使っています。

事務所場所は、「千両ヶ辻」の西側に位置します。江戸時代中期より大宮今出川通のあたりは生糸、織物を扱う和装業で大いに繁栄し、1日に1000両に値する商いが行われ千両箱が行き交ったことから「千両ヶ辻」と称されたそうです。

今現在も、少なくはなりませんがこの地域を中心に織物問屋、生糸問屋、織物関連業が立地し、西陣の景観を代表する街並みが数多く残されていることから、2001年に京都市より「千両ヶ辻界わい景観整備地区」として指定されています。また、豊臣秀吉が建造した「聚楽第」の城郭の北側に位置し、当時の城壁跡がある歴史ゆかしい地域です。

毎年、9月秋分の日には千両ヶ辻一帯では活気に満ちあふれた当時の雰囲気再現すべく、地元の晴明神社の大祭に合わせて「西陣・千両ヶ辻伝統文化祭」が開催されています。西陣織や和装文化、町家の公開など地域の生業と文化を知ってもらい、千両ヶ辻を活気づけようと地元の方々の手作りで行われているお祭りです。

京町家とその坪庭の公開や和装小物の販売、地域のまち歩きツアー、中学生の吹奏楽部の演奏に町家レストラン、地域のお店が数多く参加し、府内外からも沢山の方が来られ賑わいます。

この二年間はコロナ禍で開催が中止となりましたが、今年は第18回目となり開催が予定されています。*

*コロナの感染拡大に伴い中止になる可能性があります。

実行委員の中心メンバーは生糸問屋の社長さん、老舗の帯問屋さん、生糸問屋の元専務さん、京都写真の第一人者である写真家さん、ゆば料理屋の女将さんなど地域の重鎮で多彩な顔ぶれです。5年ほど前から事務所の町家を公開、コーヒーを提供し、庭を眺めながらゆっくりしていただく場としてお祭りに参加していました。新参者の私たちも今年から実行委員となり祭りの準備に携わっています。

秋のお祭りだけでなく、3月にも雛人形を公開する「桃の節句の彩」に参加する中で、少しずつではありますが地域のことがわかり始め、人とのつながりができつつあります。先日ある委員の方から「古い土堀の改修の相談にのってあげて欲しい」と連絡を受けました。築100年を超える建物がまだたくさん残っている西陣・千両ヶ辻で、地域にねぎした活動を広げていければと思います。

佐々木友子

